

## 秋の伯耆打線と蒜山を観光も欲張って 鳥取 大山・蒜山

|      |  |  |
|------|--|--|
| 実施日  | 2014年10月23日(木)~25日(土)  |  |
| 天候   | 晴れ   |  |
| リーダー | 涌井 良明  |  |
| 参加者  | 涌井良明、山崎富美恵、安田三恵子、小村井好江、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、石原勝正、宇野輝代、徳山敬子 計11名 |  |
| 費用   | 羽田⇄米子(早割等)¥29,480、レンタカー¥6,300、宿泊¥19,400<br>合計55,180円           |  |
| タイム  | 10/23  | 羽田(11:10~45)境港さかなセンター(12:00~50昼食)足立美術館(13:50~15:30)大山館16:30  |
|      | 10/24  | 大山館(7:45)登山口(7:55)3合目(7:53~8:00)6合目・避難小屋(8:45~55)8合目(10:35~40)弥山(11:10~12:00昼食)6合目(12:58~13:05)行者道分岐(13:16)大堰堤(13:45)大山寺奥宮(14:16~23)大山館(14:45~15:00)休暇村蒜山(16:00)   |
|      | 10/25  | 休暇村(8:00送迎 <sup>いぬばさり</sup> )犬挟峠(8:17~25)5合目(8:05~10)下蒜山頂(10:15~25)フングリ峠(11:17~22)中蒜山頂(12:15~12:40昼食)上蒜山三角点(13:54~14:00)上蒜山下山分岐(14:04~12)2合目(15:14~20)牧場(15:35~45送迎 <sup>いぬばさり</sup> )休暇村(16:55~17:45レンタカー)米子空港(18:00~20:40Air)羽田空港(22:00) |

心配していた天候も山行日の2日間がピッタリ秋の移動性高気圧に収まって、それは素晴らしい山歩きを堪能できた。これも偏に参加メンバー(リーダーか?)の日頃の行いに、この時期今山行近くの出雲に集まっていた八百万の神々が与えてくれたご褒美だったのかも知れない。

全ての条件に感謝・感謝である。

**10/23** 早い方は出発2時間近く前に羽田に着いていたようで、まずは集合時のトラブルもなく出だしは好調である。

定刻発、定刻着で米子鬼太郎空港に。空港からレンタカーでまずは腹ごしらえに境港さかなセンターへ向かう。数分で到着するも丁度昼時、平日でも少し待って海の幸の昼食を摂る。

本日午後の観光は、事前調査の通りに足立美術館に向かう。出雲大社、との声もあったが時間的余裕がなく断念した。

1時間ほどで田園の中、ひろい駐車場を持つ足立美術館に着く。しばらくは日本一の庭園と近代絵画など



の鑑賞で格調高い?ひと時を過ごす。

夕陽を浴びながら、鳥根県を後に大山の山麓大山寺に向かう。山陰道から山に向かい徐々に高度も上がって行く。大山寺の参道や登山口にも近い大山館にチェックイン、隣には何とモンベルショップがある。早速何人かは大山Tシャツなどを物色していた。鍋が主体の夕食でハラも一杯…さあ明日から山歩きだァー。

**10/24** 窓に結露、外は少し冷え込んだ様だ。これも好天の兆し、8時前朝食を済ませ佐蛇川を渡るとP、その直ぐ先に夏山登山道が始まる。始めから階段になっているが、登り下り共にほぼ山頂まで土砂流出と山体崩壊防止も兼ねた階段が設置された登山道を歩くことになる。



2万年前位の火山活動で弥山、三鉢峰、烏ヶ山の3つの溶岩ドームができたそうである。石英安山岩から成り、山体解体期に入った北側と南側は崩壊が進み岩壁となっています。と、まあ、大山についての受け売り情報です。



朝の木洩れ日と黄葉の緩い登りを進み、1合目標柱を見る、この先も合目標柱は良い目安とってくれた。



なるほどと思わせる、崩れやすそうな砂利様の土と岩の多い道が土留め階段状に続いて行く。



標高も1000mを越すと所々展望も得られるようになり、紅葉も朱味が増してきたようだ。○合目、△合目とじっくりと高

度を上げて行く。

6合目は避難小屋のある小台地で、崩壊の進む北壁や本峰からの稜線の先に立派な岸壁を従えた三鈷峰が目立つ。快晴に海岸線も眺めることも出来、山と海の眺望も楽しめる。

この先は大きな段差と岩ゴロの急登になる、登りのハイライト言うなれば胸突き八丁の様である。植生も低くなって増々眺望が楽しめるようになり、北壁の迫力も間近になり更に目を引き付けられる。



8合目になると、ダイセンキャラボクも現れる、急登が終わると頂稜も近くなり、崩壊しつつある稜線に敷かれた木道になる、周囲はダイセンキャラボクの群落となる。明るく開けた快晴の山稜を歩くのは爽快である。弥山山頂付近の歩道は周回道となっているので、左回りに進むことにしてやがて弥山直下の立派な避難小屋に出る。木道を一投足

で弥山山頂で、現在はここが事実上の大山山頂である。三角点、剣ヶ峰へは頂稜崩壊が進み、登山道は



で弥山山頂で、現在はここが事実上の大山山頂である。

三角点、剣ヶ峰へは頂稜崩壊が進み、登山道は

なく、ナイフエッジとなった稜線が伸びている。崩れる前に来られればとちょっと悔しい気もする。

平日でもこの天気で登山者も多いが、広い木段の山頂でのんびりと山上のランチタイムになった。季節・天気良し、気温も快適、風もない、こんな最高の条件の山頂ではつい長居をしてしまうのも仕方ないか。

存分に大山の頂を堪能して弥山を辞す、下りはそのまま周回路を回るように進む。



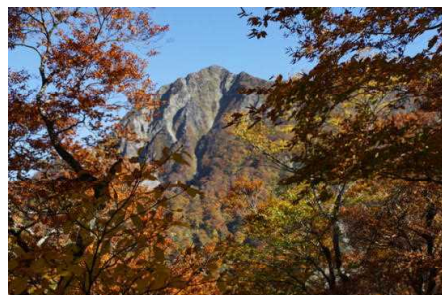
眼下の米子市から弓ヶ浜の海岸線が飛行機から見る様に広がっている。木道を石室経由で周回して、下山路となった夏

山登山道に行く。陽射しも回って北壁にも影のアクセントが増して、迫力も増している、また山肌の秋色もしっかり照らされ、碧空や白い岩壁と季節の眺めを演出している。

下りになると登りよりも急でかつ段差も高く感じられる、随分と急傾斜だったのだ。この辺りではまだまだ、登ってくる登山者も多くしばしば行き違ったが、急登に辛そうに見える登山者が多かった。6合目の下から、右へ行者道へ下る。

すぐに急傾斜に狭い間隔で丸太が埋められた階段道になる、歩きにくいが樹間からの眺望や逆光に一際映える紅葉などが、補って余りあるような道である。

正面に見える三鈷峰の岩壁も高くなり、我々は高度を下けているのが実感できる。傾斜が緩くなると



崩壊の進む大山北壁からの元谷の大きなガレ沢に出る。大堰堤と更に幾つもの堰堤の奥に真に屏風のように北壁が取り囲むように立ちはだかっている。そして前景や周囲には今が盛りの秋色の山肌が青空に映えている。ガレ沢を渡ると工事林道に出るが、沢沿いに下る登山道が続くの



でそれに入る。巨木に目を奪われたりしながら緩やかに広がった道を下って、大神山神社奥宮の行者道登山口に降り立つ。



神仏混淆時代の1805年に建てられた立派な本堂を持った奥宮である。

参道石段から、日本一長い自然石の石畳を下って大山寺に出た。

有料参拝を遠慮して、参道を下って大山館Pに帰着、これ以上ない好条件での大山の歩きも完了になった。

そして… 蒜山高原への移動になったが、米子道路に向かう鳥取県伯耆町付近



からは、大山の別名伯耆富士と呼ぶに相応しい姿を望むことができた。先ほど昼には自分たちが居た山頂

の避難小屋までも確認できた。北側の荒々しい屏風を纏った姿とは全く違う優美な山容である。

今日のサービス満点の大山に別れを告げて蒜山高原に向かった。

鳥取県から南に回り込む様に岡山県真庭市の蒜山ICから休暇村蒜山へ。

蒜山三座の前庭よろしくヨーロッパのアルプのように広々とうねる草原の中の休暇村はロケーションも環境も素晴らしい。明日登る蒜山に到着を告げて、豪勢な夕食でエネルギーを満たして(満たし過ぎか?)快適な一夜を過ごした。

10/25 休暇村は登山応援プランでの宿泊だったため、登山口への送迎、弁当付、下山後の入浴と嬉しいサービスもある蒜山登山となった。



8時送迎<sup>いぬばさり</sup>で下蒜山登山口の犬<sup>いぬ</sup>挟

峠へ送ってもらう。朝霧の漂う峠の東屋から今日の歩きが始まる。下蒜山迄約600mを登る、ややぬかるんだ細い道を辿る。樹林の道はやがて広い尾根上を行くようになる、所々クサリの付いた箇所も現れるがこの辺りでは、頼らずに済むくらいであった。5合目標柱を見ると、山肌は笹に覆われる様になり、一気に眺望も開ける。まだ残る朝霧と山並が溶け込んで良い雰囲気<sup>いぬ</sup>の山水画となっている。



行く手の下蒜山の三角錐もカッコイイネ。ススキと笹原を登り、6合目の雲居平を過ぎて左右に植生分割された

下蒜山が近づく。さて一登りと思いきや、9合目までは急登にクサリの下がる濡れた岩場が続いて注意も必要だ。更に急登を越して下蒜山に着く。これから辿る中

蒜山・上蒜山がさっさと来いや！と言っていないような？その右奥に一際高く白ザレを見せている大山の存在感はやはり名山の風格を感じさせる。



決まりの？写真を撮って、2座目の中蒜山を目指す、笹の多い道の中蒜山をに向

かって鞍部へ下って行く。濡れて滑り易い泥道から樹林帯の尾根を回る様に進



み、フングリ峠に出る。一息ついて中蒜山までの長い登りになる、標高差およそ300mは今日の登りの核心部だろう。

昼前でエネルギー残量も減ってきて苦しい登りになった。それでも一步の力で登り切って中蒜山だが、山頂はどこぞの高校生とおぼしき集団登山の子供たちが我が物顔で占領して、一般登山者はその



脇で小さくなって細々とランチをしている。時間も丁度昼時なので、我々も昼食にするが、いまいち気分がのらないランチとなった。



以前にも経験しているが、集団登山での昼食で、山頂標柱や三角点付近の長時間の占領は止めてほしいものである。尤も、引率者が持っている山の良識に依存するので、無理か？最近の当会もこのような問題には心していなければならぬですね。

てな訳で、中蒜山はお決まりの集合写真



は止む無く割愛して蒜山最高峰の上蒜山に向かう。非難小屋脇から下りになって最低鞍部まで下る、蒜山三座はどちらからも

一気に下ってそれなりの標高差の登り返しが必要である。今日は天候も良く展望もあって辛さも紛れるが、ガスや雨では三座縦走はあまり歓迎したくない行程である。さて最低鞍部から上蒜山までは230~40分を登る、下程ではないがクサリ設置の箇所もある。下⇒中より距離は短い急登は変わらない。それでも左方に下山路となる尾根が近づいて、登り切った尾根上が

下山路分岐でもある上蒜山最高点1220分だが、三角点はもう少し先の尾根上にあるので、ザックをデポして直ぐに向かう。



笹藪に覆われ尾根道は通る人も少ないのだろう？刈払もなく藪をかき分けて踏跡が見える程度である。7~8分でぽっかり空いた小空間の三角点に出た。導標や標柱もない場所で、もう先程の最高点が上蒜山(蒜山)と周知されているようである。

写真を撮って最高点の下山路分岐まで

戻り、三座縦走を完了、下山に掛かる。

始めは樹林帯を下るが、道は他の二座に比べ歩き易い、蒜山と言えれば最高峰の上蒜山を指し、それだけ登る人も多いのだろう。途中の槍ヶ峰は登り返しも殆どなく通過、その先回りから痩せ気味のカヤトの尾根筋を下るようになるが、それだけにとっても眺めは良い。



広々とした開放感のある蒜山高原の草原を見下ろし、歩いて来た二座を振り返りつつ下って行く。600分以上

を一気に下るので傾斜は急な部類だが、クサリ場もなく階段も多く、道も乾いている。が、転がる小石に乗ったりしないように注意が必要だ。合目標柱を確認しながら順調に下り、二合目になると傾斜も緩くなる。

その下は植林帯を少し下ると登山道入口で牧場内の道になった。

休暇村に迎えの依頼をして、のんびり牧場を下り、タイミングもピッタリの迎えの車で休暇村に戻った。

予想はしていたが、蒜山三座縦走は大山よりも明らかにハードな行程であったが、好天の助けもあって全員元気に踏破できたことに感謝します。

休暇村の展望風呂で歩いた蒜山三座を眺めながら湯に浸かりサッパリ。

その後も車は順調に空港に、更に羽田には定刻22時に帰着、解散になった。

また一つ好印象の山旅が増えたのが嬉しい。楽しい3日間だった。

皆さんの歩きに感服、と、会計始め諸々についてご協力いただきました。

感謝・感謝、有難うございました。

これからもこぶし会で思い出に残る山旅ができることを目指したいですね。

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・石原 勝正)